

# 議員研修セミナー報告

日時：平成30年2月10日  
会場：名古屋都市センター  
住所：名古屋市中区金山町1-1-1  
主催：（株）地方議会総合研究所  
講師：明治大学政治経済学部講師 廣瀬 和彦  
参加人数：（午前の部）10:00～12:30 （午後の部）14:00～17:00

## （午前の部） 議員報酬の算出手法を考える（参加者11名）

1. 議員報酬の意義と法律の改正経緯
2. 議員報酬の現状と住民の捉え方
3. 議員報酬に対する取り組みと事例
4. 議員報酬算定の7つの基準

## （午後の部） 議員定数の算出手法を考える（参加者17名）

1. 議員定数の意義と地方自治法における規定の変遷
2. 議員定数にあたっての留意点
3. 議員定数に対する住民の捉え方と議員定数現状
4. 議員減少にかかる問題点と委員会審査
5. 議員定数算定方式

# H29年度 市町村議会研修（2日間コース）

## 「防災と議員の役割」

報告者 市民ライフ 和田悦子

平成30年1月11日（木）～ 1月12日（金）

1日目 ・地域防災力を向上させるために 13：00～

明治大学大学院特任教授 中林 一樹

・平時の防災 14：45～

・平時の防災と議員の役割 16：10～

跡見学園女子大学観光コミュニティデザイン学科

教授 鍵屋 一

2日目 ・災害時の議員の役割 午前中

跡見学園女子大学観光コミュニティデザイン学科

教授 鍵屋 一

・災害直後、復旧・復興期における議員の役割

熊本市議会議員 小池洋恵

今回の「防災と議員の役割」についての講座は、議員として、是非、学んでおかななくてはならないという使命感をもって臨んだ。

自分なりに災害が起きたときは、まず、なにをすればいいのか？と改めて思ったことは、第1に、自分の身を守ること。次に近隣の市民の手助けをすること。避難所への誘導であったり、はて、その次の行動は何をすべきか？ 実際の災害現場での経験がないので、どんな問題がおきてくるのか想像がつかない。

そこで、中林先生からの「防災対策として議員の期待すること」として

- ・地方議員は、公人である前に、住民であること。
- ・災害時の活動は、平時以下でも、平時以上でもない。
- ・平時も、発災初動期も、住民目線、女性目線で活動する。
- ・学校防災の強化に目を向けること。「權より始めよ」。つまり、まず、手近なところからはじめる。言い出したものからはじめるということ。
- ・発災3日間は、住民として活動する。
- ・公平、平等、厚生が災害対応の原則。
- ・行政を支援し、住民を支援する（職員も被災者）
- ・地域防災計画、災害活動マニュアル、BCP（事業継続計画）を充分理解する。
- ・復旧・復興期から、執行部（行政）に対するチェック機能を。

まずは、「權より始めよ」という言葉には、具体的に自身が動いていくこと。そうすれば、市民も気が付いて支援に回ってくれること。

また、当然と言えば当然であるが、防災計画などを理解しておくことも大事である。去年は防災士の資格を得ることができたので、できるものなら、災害現場での救援経験を積み、地域に少しでも貢献ができたらと思っている。

#### <鍵屋講師>

- ・講師の議員個人でまず、どのような行動を起こすのかは自問しながら、行動することに尽きるという。

#### <大規模災害発生>

- ・まずは自身の、家族の安全確保に努める。
- ・地域の救援活動に参加
- ・情報収集
- ・連絡態勢の確保
- ・日頃から、災害対応に関する知識の習得、災害に備えた準備、訓練に努める。

<東日本大震災での宮城県東松島市議会議員の行動> 鍵屋氏提供

- ・災害時の議員のマニュアルがない。議員の統一行動は不可能。
- ・議長⇒陸上自衛隊のヘリで被災状況を確認。海上自衛隊にも応援依頼。人脈は大切。

U議員⇒避難所運営のための組織を作った。食事確保、水の番の当直を決めて盗まれないようにした。マニュアルがあってもうまくいかない。みんな被災者だから。「1週間、飲まず食わずでも死なないから大丈夫」と言った。

直接のボランティアは市を通してもらうように言う。

O議員⇒各区長、自主防災会で朝晩、対策会議を開いた。

寒さ対策、食事確認、全て班ごとに分けた。班それぞれ、考え方が違っていたが、助け合ったことが良かった。議員としてではなく、被災者として市役所に顔を出した。

S議長⇒議員安否をして一堂に会しても、なにをやるかは不可能。震災対策特別委員会を立ち上げたが、まとまった行動には20日~30日もかかる。

「自主防災組織」は確率されていたので、そのリーダーを超えた行動はおそらくしなかったのだろうと思う。

<議員としてやってはならないこと>

- ・スタンドプレー。リーダーを超えてはならない。分をわきまえること。

<熊本市議の小池氏の話>

小池氏は実際に被災した当地での経験談でとてもリアリティに富んだ話であった。

- ・緊急時の判断を自身が責任をもって対処したこと。
- ・これまでの各地での被災現場でのボランティア活動の経験で自信をつけたことなど、幅広い活動をもつ小池氏に脱帽した次第。何事も経験をすることの重要性を学んだ。